

令和五年 第六十八回流山市文化祭

謡曲と仕舞の会

特別企画 「和と洋の共演」

バレエと能のコラボレーションによる

能楽 賀茂

令和五年十月二十八日(土)

十時半開演 十六時半終演

スタートはおおたかの森ホール

入場無料(ご来場歓迎)

主催 流山市文化協会謡曲部

流山市文化祭実行委員会

共催 流山市教育委員会

後援 流山市

能楽 賀茂

能楽「賀茂」のあらすじ

- ・播磨国室津(兵庫県たつの市)の賀茂神社の神官が、賀茂社の本宮である京都賀茂神社を訪れる。(賀茂神社は、下賀茂神社・上賀茂神社があり、舞台は下賀茂神社)
- ・神域の川辺には、「白羽の矢」を祭る祭壇がある。
- ・そこへ水汲みの女が現れる。
- ・神官が、「白羽の矢」の由来を尋ねると、女は「賀茂の神」の由来を語る。
- ・この付近の長の娘が水汲みに来、川上から流れてきた「白羽の矢」を持って帰る。すると娘は懐胎し子を産んだ。子が三歳の時父親を尋ねると、「矢」指差した。すると矢は雷となり天に上がり神となった。同じく、母子ともに神となり氏の守り神となった。(子→別雷の神 母→御祖の神 矢→松尾大社の神 賀茂三所の神)
- ・由来を聞いた神官が、女の素性を聞くと、神に祈れば正体を現すと言って消える。
- ・さわやかな音楽と共に「御祖の神」が登場し、「世の平安を守る」と舞を舞う。
- ・続いて颯爽とした音楽と共に「別雷の神」が登場し、「五穀豊穡と国土安穩」を約束し、二体の神は天上へ去っていく。

前半が賀茂の神の神威譚、後半が五穀豊穡・国土安穩を祈念する構成となっている。

バレエと能のコラボレーションによる「賀茂」のあらすじ

- ・播磨国室津の神官が、京都下賀茂神社を訪れる。
- ・当日は「足漬神事(御手洗祭)」御手洗川で禊をする、神様が降臨する日である。

*足漬神事は、土用の丑の日前後に今も行われている

- ・神官は御手洗川に入り、神を待つ。
- ・「御祖(みおや)の神」が顕れ、平安の世を寿ぐ舞(天女の舞)を舞う。
- ・続いて「別雷(わけいかづち)の神」が登場し、勇壮に「五穀豊穡・国土安穩」守護を約束する。



下賀茂神社 足漬神事



御祖の神



別雷の神

能楽の中での「賀茂」の位置づけ

興行としての「能(江戸時代までは猿楽と呼んでいた)」は、能楽5番、狂言4番の組み合わせが原則であり、以下の順で上演されるのを原則とした。

初番目(神・神祇物) 「神」が登場し舞台と観衆を寿ぐ爽やかな演目

2番目(男・修羅物) 多くは合戦で亡くなった武将の死しても尚戦わねばならぬ苦悩がテーマ

3番目(女・鬘物) しっとりした情感の曲。移ろう恋、衰える容貌等無常への嘆きの曲が多い。ひたすら華やかな曲もある

4番目(狂・執心物) 愛する者(物も)への執心故の迷い・恨み・悔恨等がテーマの演目が多い。劇的な構成になっている。

5番目(鬼) 多くは異界の存在が激しいパフォーマンスを展開する爽快な演目

能は緊迫した舞台構成となっている為、能の間にコント(狂言)をはさみ緊張をほぐす構成になっている。「賀茂」は最初に上演される「初番目物」「神祇物」等と呼ぶジャンルの演目である。